学校番号	１３０２

令和８年度　国語科

教科	国語	科目	言語文化	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「改訂版　言語文化」（数研出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この授業では、様々な時代の文章に触れることで「読む能力」を向上させるとともに、自らの考えや意思を伝えるための「書く能力」を身につけてほしいと考えています。そのため、授業内ではグループ活動などの周りの人と協働で考える活動も行います。

板書については単に書き写すだけでなく、授業のポイントや授業で気づいたこと、クラスメイトの発言で気づいたことなどを記入し、「考えをまとめる」ための材料を残すようにしましょう。

2　学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

【知識及び技能】

生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生涯にわたる社会に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「書くこと」・「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者とかかわったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
一学期	古文の世界を楽しむ ［教材］ 宇治拾遺物語「児のそら寝」	a:古文の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 b[読]:文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 c:積極的に「児」と「僧」の様子や信条を捉え、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	定期考査	定期考査 提出物・課題	提出物 取り組み
	平安宮廷文学の世界 ［教材］ 枕草子「ありがたきもの」	a:古文の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 b[書]:自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。 c:積極的に古文を自分に引きつけて解釈し、学習課題に沿って現代語の随筆を書こうとしている。	定期考査	定期考査 提出物・課題	提出物 取り組み
二学期	和歌による心の交流 ［教材］ 伊勢物語「芥川」	a:古文の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 b[読]:文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 c:粘り強く地の文と和歌の関係性を読み解き、今までの学習を活かして本文全体を解釈しようとしている。	定期考査	定期考査 提出物・課題	提出物 取り組み
	受け継がれる古文 ［教材］ 『羅生門』	a:古文の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 b[読]:作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。 c:登場人物の心情の変化に注目しつつ、作品に対して古典の世界が与えた影響について解釈しようとしている。	定期考査	定期考査 提出物・課題	提出物 取り組み
	故事と成語 ［教材］ 『漁夫之利』	a:古文の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 b[読]:作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 c:句読点の違いによる解釈の差異について粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	定期考査	定期考査 提出物・課題	提出物 取り組み
三学期	先人を思う旅 ［教材］ 奥の細道「序―漂泊の思ひ」	a:古文の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 b[読]:文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 c:筆者の「旅」に対する思いに注目し、先人に倣う態度を解釈しようとしている。	定期考査	定期考査 提出物・課題	提出物 取り組み

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準[ｂ]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・書くこと　…　（　１０　）時間

・読むこと　…　（　４０　）時間

・読むこと（近代以降の文章）　…　（　２０　）時間